

平成20年度第1回ひとり親・児童福祉推進市民研究会議事録

1 開催日時

平成20年5月31日（土） 13:30～15:40

2 開催場所

保健センター会議室

3 出席者

（市民委員）15名（欠席2名）
（市職員）4名
（事務局）2名

【会議内容】

1 研究会に関する全般的な説明

保健福祉総合計画及び福祉推進市民研究会に関する概要を委員へ説明。

2 委員紹介

各委員、自己紹介を行う

3 座長・副座長の選出

座長に渡邊委員、副座長に坂本委員を選出。

4 議事

（1）健康福祉部の組織改編について

○事務局より説明

我孫子市役所は4月に全庁的な組織の見直しを行った。福祉部門は「保健福祉部」から「健康福祉部」と部名を変更し、6課体制から8課体制となった。2課増になった内訳は、市民部から国保年金課の編入、保育課を分割して「子ども家庭課」の創設による。

今回の組織改編における4つの主要課題

1. 子ども部門の組織の肥大化への対応
2. 国の医療制度改革への対応
3. 生活保護業務と障害者支援業務の在り方
4. 健康福祉政策室の設置

について説明。

(2) 第3次保健福祉総合計画の進捗状況について

○事務局より説明

「第3次保健福祉総合計画主要事業・重点事業」の平成19年度進捗状況及び平成20年度予定を報告。

- ①番号2「乳幼児期健康診査」
- ②番号6-3「保育園・幼稚園への巡回相談」
- ③番号6-6「児童デイサービス」
- ④番号8「一時保育の拡充」
- ⑤番号16「幼稚園における子育て支援事業の実施」
- ⑥番号20「計画的な保育園定員の拡大」
- ⑦番号23「子育て支援センターの拡充」
- ⑧番号27-2「個別支援会議の充実」
- ⑨番号28「しあわせママパパ学級」
- ⑩番号34「子どもの居場所づくり推進事業」
- ⑪番号37-3「特別支援教育アドバイザーの派遣」
- ⑫番号50「がん検診」
- ⑬番号103「就労支援システムの整備」
- ⑭番号105「療育・教育システムの確立」
- ⑮番号108「新たな福祉制度に対応した行政機能の整備・強化」
- ⑯番号128-1「休日診療所の運営」

以上16事業について報告。報告できなかった事業は報告書にかえる。

5 討議

進捗状況についての意見交換

(座長)

委員の中にはサービスを提供する側と受ける側の立場の方がいる。それぞれの立場での活動を紹介してもらいたい。

(市民委員/ファミリー・サポートセンター)

社会福祉協議会から委託の子育て支援事業である。子どもを預かってほしい「利用会員」と預かってくれる「提供会員」との市民参加型有料ボランティアである。AM6時からPM10時が提供時間。子どもの保育、幼稚園や保育園の送迎など利用者が必要とするサービスを提供している。現在、利用会員565名、提供会員137名、両方をおねる会員20名の登録がある。提供会員は少ない状況だが概ね対応はできている。我孫子駅前に大規模なマンションができたことから、提供会員の募集を昨年度1年間、定期的に市のホームページや広報に掲載し、提供会員の増加を図った。1年間で10人以上の登録があった。父子家庭の会員などへの時間外の預かりサービスなどができないのが残念。事故への対応として4種類の保険に加入しているが、今までに大きな事故はなかった。

(市民委員/民生・児童委員)

- ・独居高齢者や寝たきり高齢者が対象の活動が多い。主任児童委員と協力し運動会や昔の遊びなどで子供達とふれあっている。
- ・市からの連絡があった時点で活動を始めている状態。

(市民委員/主任児童委員)

児童の虐待等を専門に扱っている。学校や保健センターなどと常に連絡を取り合い情報交換をしている。また、双子や三つ子の親が孤立しないよう、地域の就学前の親子の交流の場を提供している。

(市民委員/健康づくり推進員)

健康や食育などについて市民と保健センターをつなぐ役割をしている。福祉祭りや社会福祉協議会主催の健康づくりのイベントなどに参加し情報を提供している。昨年度は、乳幼児健診未受診の家庭を訪問し保健センターとつなげたり、夏休みには学童保育室で食育の指導を行った。

(市民委員/あびこ子どもネットワーク)

市の委託事業として活動している。年に5回の子どものイベント情報誌を発行し、小学校、中学校、幼稚園、保育園に配布している。昨年若松で親子ルーム「バンビーノ」を開設している。

(市民研究会/すずらんの会)

ひとり親家庭の会。年に数回、市から補助をもらいキャンプやバス旅行などを行っている。会員は50組程度いるのだが参加する家庭が少なくなってきた。今後どのように活動しサービスを提供していくのかが課題だと思っている。本当に大変な家庭ほど、広報を見たりする余裕もなく情報が伝わっていないなど、うまく循環していないのではないと思う。

(市民委員/七園連絡協議会)

市内の公立保育園の父兄で作っている協議会。年に1~2回市長との懇談会を行っている。ファミリーサポートの利用会員として登録もしている。緑保育園は今年の4月から運営を民間委託し、円滑にスタートした。PM9時まで夜間保育サービスが提供されるようになり、今までファミリーサポートを利用していた人も夜間保育サービスに利用を移していると聞いている。

(市民委員/学童保育連絡協議会)

市内13小学校に親の就労支援として設置されている。

(市民委員)

「学童保育室」と「子どもの居場所」とのかねあいはどうなっているのか。
→「学童保育室」は親の就労支援の事業であり、「子どもの居場所」は自己責任において放課後を過ごす場である。「子どもの居場所」事業は今年度から社会教育課の所管となった。
(事務局)

(市民委員)

今後市内の小学校に「子どもの居場所」開設していくと聞いている。リーダー、サポーター

の登録が少ないと聞いているが。

(市民委員)

子どもの居場所は無料のため、有料の学童を辞め子どもの居場所に移ったとの話も聞いている。

(市民委員)

昨年子どもの居場所事業は始まった当初は、“放課後事業”、学童保育は“就労支援事業”との説明を聞いていたが、今年の3月頃から一本化という話しが出始めている。議会でも「同じような事業なのに予算が2つに分かれているのはなぜか？」との質問が出ていると聞いている。障害のある子どもにとって、学童保育室は健常児と関わることのできる唯一の空間である。一本化されてしまうと障害のある子どもは参加できなくなってしまうのではないか。また、一本化されなくても、同じ学校の中の学童保育室の指導員と子供の居場所のスタッフの連携が取れていなければすぐに崩壊してしまうのではないか。

→担当課に確認し後日返答する。(事務局)

(市民委員)

進捗状況報告には、市、委託業者あるいはボランティアなど、実施した事業者を明記したほうがいいのではないか。

→高齢者部門でも指摘があった。今後工夫していきたい。(事務局)

(市民委員)

以前は母子家庭に民生委員が訪問してくれ「すずらの会」を紹介していたが、最近委員に変更があったときも自宅を訪ねてきてくれることがなくなったと聞いている。どのようなしくみになっているのか。

→以前は県の「母子福祉推進員」が訪問していたが、平成16年度でこの制度が廃止されてしまった。(民生委員)

(市民委員)

いろいろな事が縮小されてきていると感じている。すずらの会も会員は減ってきているが支援が必要なこと、困っていることもあり、会を存続していきたい。行事に対しても人数が集まらないものには市の補助がないので、会の予算で行うものと市と協賛で行うものがある。

(市民委員)

「母子福祉推進員」が廃止されてしまったことが「すずらの会」の会員減少につながっているのではないか。

(市民委員)

「母子福祉推進員」は県の制度のようだが、市でもう一度復活させてほしい。

(市民委員)

市役所の窓口にも「すずらの会」のパンフレットを置いてほしいのだが、個人活動の宣伝になるので置けないと聞いている。新聞をとっていないので、広報を見ない家庭もある。

→普段は保育課の窓口においてあるが、市が斡旋していると思われないように注意している。

広報は市に希望すると郵送してもらえる。(子ども家庭課)

(市民委員)

民生委員の中にも「すずらの会」の活動内容を知らない委員もいる。また、自分の担当地区の名簿から対象の母子家庭などが抜けてしまっている可能性もある。一度、「すずらの会」の方に民生委員の協議会などで会の紹介してもらえると良いのでは。

→社会福祉協議会に相談してみてもどうか。(市民委員)

(市民委員)

5歳児健診が本年度から施行されたようだが、内容は？

→保育園・幼稚園入園者には、月に1回、保健センターにて歯科健診、必要者及び希望者には心理相談、栄養相談、育児相談を行っている。また、公立保育園を巡回し、集団活動場面の観察を行っている。未就園児に対しては、年に2回、歯科健診、行動発達の観察、必要者及び希望者には視力検査、心理相談、栄養相談、育児相談を実施し、小児科診察については健診無料券を発行し対応する。(健康づくり支援課)

(市民委員)

幼稚園や保育園に通園していない児童はどのように把握しているのか。

→健康づくり支援課より、保育課へ保育園・幼稚園入園者情報提供の依頼があり、入園の有無を回答している。(保育課)

(座長)

5歳児健診は全国的に行われているのか。どのような効果があるのか。

→行っているところは少ない。健康状態を把握するとともに、発達障害などを早期に発見し、適切な指導および支援に結びつけることを目的としている。(健康づくり支援課)

(市民委員)

重度の障害であれば3歳児検診で判るが軽度だと判らないことが多い。小学校に入りトラブルがあってから気付くことも多いようだ。最近は特別支援教室だけではなく、支援員をつけてもらい普通教室に通うなど、親の希望で選択し就学ができるようになってきている。入学前に把握できていれば、十分な検討期間もあり選択肢も広がるのではないかと。良い制度だと思う。

(市民委員)

軽度の障害の子の親に対してのケアやアドバイスなどをしてあげる制度があっても良いのではないかと思う。

(市民委員)

「相談できる場がたくさんある」ことが大事ではないか。相談場所についての総合案内を市でやってもらえないのか。

→広報でお知らせする他、子育て支援ガイドブック「すくすくわくわく」などにも掲載している。(事務局)

(座長)

これだけ数多くの事業を把握している市民は少ないのではないかと。もっとPRした方が良いと思う。

(市民委員)

福祉の推進は大切だと思うが、行政がどこまで直接関与していくべきか考えるべきではないか。予算と人の限界の中で福祉に対してどこを境界と見定めるかが重要であり、判断が大事だと思う。

(市民委員)

民生委員として受け持ちの地区の 500 世帯にチラシを配布したが、何人の人が見ているのか。ひとり親家庭などを訪問すると、会うことを拒否する方もいて、市の担当者と一緒に訪問することもある。それぞれ思いが違うので、どこまで踏み込んでいいのか難しいと感じている。市の方からも民生委員についてアピールしてほしい。

(市民委員)

コミュニケーション力の欠如を感じる。

(市民委員)

情報が伝わっていないのではないかと。広報に載っている情報やお知らせの封書が届いても、子育てや仕事で忙しく、なかなか目を通すことができない。メールなどで有益な情報を配信するサービスなど、市で行ってはどうか。

(市民委員)

民生委員のチラシを見て連絡がきたこともあった。時にはすごい力を発することがあり、「配布して良かった」と感じる時もある。ネットや携帯電話での情報だけでなく、活字で伝えることも残してほしい。

(市民委員)

緑保育園の民営化はスムーズに進んだのか？

(市民委員)

先生が全部入れ替わってしまうことの子供たちへの影響を危惧していたが、園長先生が残ってくれたので良かったと思っている。1年間の引継ぎ期間があったので今のところ順調にスタートしたようだ。

(市民委員)

保育園では臨時職員も含め保育士の異動が多く、年度始めは子供も泣いてしまい大変だと聞くが。

→待機児童ゼロを維持するため、随時、臨時保育士を採用している。4月1日時点で定員に戻すので辞めてしまう保育士や異動になる保育士が出てしまう。(保育課)

(市民委員)

休日保育は？

→昨年度は恵愛保育園で行ったが、思っていたほどの利用者はなかった。2園目については慎重に検討していきたい。(保育課)

(市民委員)

保育園民営化など、親としては体制が変わることにとっても不安を感じる。実行するまでの過

程、導入部分が大切ではないか。行政と保護者が一体化して進めていくことが大事だと思う。

○事務局より

今年度は進捗状況の管理を主に行う。次回は、20年度上半期の執行状況についての報告を11月下旬頃に行う予定。日程が決まり次第連絡する。

○会長より

今回は平成19年度の執行状況と20年度上半期の予定についての報告があった。引き続き、この研究会においては計画の進行管理を行っていききたい。

○健康づくり支援課より

柏市が中核市になり、独自に保健所業務ができるようになったので、今までの柏保健所は柏市民のみが利用することとなった。我孫子市は松戸保健所の管轄となり、保健センターの3階に4月1日より連絡所が設置された。毎日行う業務と出張日に行う業務とがあるので、毎月発行の広報あびこで出張日をお知らせしている。

以上

<補足>

○「子どもの居場所事業」と「学童保育事業」について

昨年の「子どもの居場所事業検討委員会」の報告書の内容を受け、「放課後対策事業検討委員会」（市民代表を含む）の場で、今後の「子どもの居場所事業」と「学童保育事業」の一体的運営について、現在検討を行っています。（子ども家庭課）